第4回 第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会 議事録

1. 日 時 令和4年 6月29日(水) 13:30～:15:45

2. 場 所 リモート及び加賀市役所別館304会議室

3. 出席者

委 員 5名

(委員長) 坂本 英之

(委員) 佐藤 留美

田畑 智日

辻 寛子

山田 真名美

オブザーバー 3名

稲田 純一

坂本 誠一(代理 金沢河川国道事務所 調査第二課 建設専門官 堀口 淳)

本田 芳宏(代理 大聖寺土木事務所 地域調整担当次長 宇野 義和)

事務局 6名

建設部長

加賀市建設部都市計画課

4. 次 第

1. 開 会

2. 建設部長あいさつ

3. 議事

・前回からの見直し

・基本方針1のアクションプラン・取組み

・基本方針2のアクションプラン・取組み

・推進体制、ロードマップ

4. その他

・今後の予定

5. 閉 会

5. 傍聴者 なし

6. 議事内容

◆事務局

本日は、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。

只今より、第4回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を開会いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます高辻と申します。

開会に先立ち、オブザーバーの交代をご報告いたします。

この度、国土交通省金沢河川国道事務所事業対策官の餘久保陽様が異動となり、その後任の坂本誠一様にオブザーバーをお引き受けいただくこととなりました。

本日は、代理で堀口建設専門官にご出席いただいております。

続いて、石川県南加賀土木総合事務所所長の平田浩一様の異動に伴い、後任の本田芳宏様にオブザーバーをお引き受けいただくこととなりました。

本日は、代理で大聖寺土木事務所地域調整担当次長の宇野義和様にご出席いただいております。よろしくお願いいたします。

ここで、委員総数5名全員にご出席をいただき、「第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会要綱」第5条第2項の会議成立要件を満たしていることをご報告いたします。

◆嶽野建設部長

第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員・オブザーバーの皆様、本日はご多用のところ本委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、全国各地で記録的な早い梅雨明けとなっているようですが、近年はゲリラ豪雨など異常気象となっており、私共の部署といたしましては、浸水被害や土砂災害などに注意しなければならず、気が抜けない時期となっております。

そんな中、緑の基盤、いわゆるグリーンインフラが担う役割は重要と考えております。このグリーンインフラは、適正な保全や計画的な管理を行うことで、自然災害を減じる減災のほか、市民の安らぎの場の創出に寄与することも考えられます。

皆様にご検討いただく本市のガーデンシティ構想推進プランは、このグリーンインフラの考え方を導入し、保全・活用について検討しております。観光振興には寄与しないのではないかと感じる方もいらっしゃると思いますが、グリーンインフラの在り方を示すことで、シビックプライドの醸成に結び付き、これにより、都市の魅力も向上していくものと考えております。

皆様方には、ガーデンシティ推進の市民活動が促進され、また訪れる人にも活動を促し、誰もが心身ともに満たされる推進プランとなるよう、各々の視点からご意見、アドバイスを賜りますようお願い申し上げます。

◆事務局

ここで、事前に送付しているファイルをご確認願います。

まず、本日の会議次第、第4回検討委員会資料、以上となります。不足の方はお申し出ください。

それでは、検討委員会要綱に基づき、これよりの議事進行を坂本委員長にお願い致します。

◆坂本委員長

第4回ということで、いよいよ佳境に入りました。時間の限り有意義な議論をできればと思います。

また、委員の方だけでなく、オブザーバーの方からもご意見をいただけたらと思います。

議事1 前回からの見直し

◆坂本委員長

それでは、議事1の前回からの見直しについて、事務局より説明してください。

◆事務局

(議事説明)

◆坂本委員長

こちらに関して、ご質問やご意見があればお願いいたします。

議事2 基本方針1のアクションプラン・取組み

◆坂本委員長

特にご意見がないようですので、議事2、基本方針1のアクションプラン・取組みについて、事務局より説明をお願いします。

◆事務局

(議事説明)

◆坂本委員長

ご質問やご意見があればお願いいたします。

◆佐藤委員

前回からの見直しの部分ですが、基本方針について、テーマはただの言葉であり、頭では意味はわかりますが、イメージが湧きづらいと思いますので、加賀市がどのようなガーデンシティを目指すのか、実現していくのかがわかるようなイラストやビジョンマップが必要だと思います。どこでどんなことができるか、見える化することで、市民の方も自分の役割がわかりやすくなって良いと思います。

2ページ目に基本方針が記載されていますが、これらの基本方針はそれぞれバラバラに進めるものではなく、有機的に組み合わせを進めていくものだと思います。どのアクションプランがどの基本方針に関連するのか、そして、どのように進めていくかを工夫して見せないと、効率的に進めることは難しいと思います。

そして、16ページのアクションプランについてですが、このようにプレイヤーを細分化することは良いことだと思いました。しかし、プレイヤー分析のところはもう少し精査する必要があると思います。

これからの観光というのは、観光客におもてなしするだけでなく、観光客自体がガーデンシティに参加し、加賀市に興味を持ってもらって、そして、住んでもらうような循環をつくるのが大切だと思います。地域のコミュニティの土台をつくり、地域づくりをしていくことは非常に重要ですが、全体的に観光色が弱くなってしまったように感じるので、外に向けた発信についてももう少し記載した方が良いと思います。

アクションプランの「知る」「参加する・学ぶ」「繋がる」とありますが、「繋がる」が漢字で書かれていますが、ひらがなで「つながる」のほうがまちづくり関係ではよく使われるので、ひらがなで記載した方がよいと思います。

また、ローカルメディアと連携した点については、非常に良いと思うのですが、一方で、ローカルでつながりつつ、外とのつながりを作るということが重要だと思います。情報発信は広報戦略という文脈もしっかり入れていただくと良いと思います。

最後に、16ページの取り組み1-3-②について、「プラットフォームの作成」より「構築」という言葉の方が良いと思います。

◆坂本委員長

私もどういものが出来上がるのかわかりにくいので、イメージを追加するとわかりやすく良いと思います。

◆事務局

テーマだけではなく、イメージや写真など具体的にあった方がいいというアドバイスがありました。現在はそういったものは入っていませんが、公表するときにはわかりやすいよう、作り込みをしていきたいと思います。

各基本方針の関連性については、佐藤委員のおっしゃる通りで、各基本方針やアクションプランについて、内部で話している中でも関連性が重要だと痛感しています。見せ方を工夫することは必要でありますので、この方針・アクションプランはこれに関連していることなどがわかりやすいよう記載したいと思います。

プレイヤーの分析についてももう少し精査したいと思います。

また、ご意見いただいたように、観光客を巻き込む視点が重要でありますので、これらの部分についても検討し、修正を行いたいと思います。

「繋がる」のひらがな表記についてですが、事務局として、ひらがな表記をうまく活用して、より柔らかくお伝えするような形にしたいと思います。

「プラットフォームを作成する」を「構築する」へ変更することについても検討したいと思います。

ローカルメディアについて、別の案件ですが、公園をつくった際に、ローカルメディアだけでなく、個人のSNSなどでもPRしていただいたことで情報が広がり、それらの情報をもとに、逆にマスメディアから取材いただくこともありました。記者の方にプレスをかけることももちろん重要ですが、SNSの口コミやローカルメディアの反響でまず興味を持っていただくことも重要ですので、ローカルメディアとマスメディアどちらについても両輪で取り組んでいきたいと思います。

◆山田委員

人と仕組みも含めて担い手を育てていくことは大切だと思います。

プレイヤー分析で気になったのは、関心が低いという方から仕事で関わっているという7つの分類分けをしていますが、最終的に関心が低い人たちをどの分類まで引き上げていくかを考えた方が良いと思いました。私たちの財団では、ステークホルダーピラミッドと言っていますが、最初はSNS等のフォロワーやメルマガ会員であった方が、どこかのタイミングでイベントに参加するようになり、寄付者、マンスリーサポーターになっていくなど、関わりの濃度について、毎年何人目標とするか計画を立てています。16ページにあるようなフラットなプレイヤー分類だと、関心が低い人を上の段階へ持っていくステップがわかりにくいので、ピラミッド型の図を記載するなど視覚的に示すと良いと思いました。

ウェブサイトを作成することなどは、コミュニティを作る上で非常に大切だと思いますが、継続性が難しいので、既存のコミュニティや既存の団体さんとうまく連携していくことが大切ではないかと思っています。

◆事務局

プレイヤーのみずとみどりの関与度としては、最終的には活動を行うというところまで引き上げたいという目標があります。見せ方を図で示す等、デザインを検討したいと思います。

既存団体とうまく連携していくというところですが、市としても重要だと考えています。この後の仕組みの説明で、再度説明させていただきます。

◆山田委員

みなさんが仕事に関わっていただくわけではないということ、関心の低い人を参加する人まで引き上げていくことを目標とすることがこの計画の共通認識であると思いますので、デザイン的な見せ方もですが、委員会内でどのような共通認識を持つのが重要だと良いと思います。

◆辻委員

私は地域の方が活動に参加する方法について、小松市や金沢市のように、地域、学校、企業の活動に市長賞などの賞を与えることで、モチベーションや気持ちが高まり、関心を得られるのではないかと思います。加賀市全体の地域から、企業の方々の力も借りて、1年に1回は審査の日を決めて、参加者の方々に見ていただいて、賞を選ぶなどしてみたいはいかがでしょうか。

◆事務局

活動の賞について、他の自治体でも行っていることはこちらでも把握しております。これらの賞をつくることに関しても、円卓会議、プラットフォームの場などで意見が出ると良いと思います。賞を設けることで、市民の方々の活動のモチベーションの向上にもつながると思いますので、より有効な方法を考えていきます。

◆坂本委員長

広報戦略などのお話がありましたが、発信力も一つの戦略的な考え方になっていくのではないかと思います。

議事3 基本方針2のアクションプラン・取組み

◆坂本委員長

続いて、議事3、基本方針2のアクションプラン・取組みについて、事務局より説明をお願いします。

◆事務局

(議事説明)

◆佐藤委員

基本方針2の仕組みづくりは基本方針のうちの1つというよりは、5つ全ての基本方針を進めていくために必要なものだと思います。今の書き方だと、仕組みづくりについて基本方針2にしかかかっていないように思います。5つの基本方針を進めていくのにどのような仕組みをつくるか、全体を考えていかなければならないと思います。

また、17ページの図に構想推進団体とありますが、これについては、次のページの推進体制に出てくるチームづくりと同じものだと思います。そうすると、構想推進団体の位置付けや、どう作っていくのかということが重要だと思います。構想推進団体は、全部の基本方針を推進していく仕組みであり、推進体制イコール仕組みではないかと思いますので、基本方針2と推進体制の内容が少し被るところがあるので、整理し直した方がわかりやすくなるのではないかと思います。

内容については、公園緑地や遊休地の活用推進で有名なのが柏市のカシニワ制度の事例があります。柏市では、第3セクターである財団がマッチングの運営を行い、中間支援をしています。今

の推進体制の構想推進体制だと、検討委員会の延長線上にあるかのように書かれていますが、法律的なこともあり、それではなかなか動き出せないと思います。17ページの左の図に、行政と専門家と構想推進団体という流れがありますが、チームと構想推進団体の違いがわかりにくいです。土地を扱っていくことなので、そこには専門的な視点が必要で、簡単な仕組みではできないと思います。事例を集めて実際にどのように運営しているのか調べないと実行できないと思います。

◆事務局

仕組みづくりというのは、おっしゃる通り、基本方針のそれぞれに関わってくるもので、取り組んでいくために必要な体制になると思います。

◆佐藤委員

全ての自治体で中間支援組織が必要だという議論はありますが、どうやって組織を支えていくかという話で止まっているという現状があります。私が関わっているNPO法人では、指定管理者制度と組んで、中間支援組織として活動しています。そのような仕組みがないとなかなか難しいと思います。仕組みがつくられるのを待っていたら、おそらく何も動き出さないので、モデルプロジェクトをつくって取り組んでいくということが必要だと思います。モデルプロジェクトを進めていきながら、加賀市にあった形はなんだろうということを推進会議等で考えていき、構想推進チームをどのような形でつくっていくのかを考えていく必要があると思います。

◆事務局

そのような視点を取り入れ、検討を進めていきたいと思います。

◆坂本委員長

いろんな自治体でこのような取り組みを行っていますので、それを参考にしてみてはいかがでしょうか。行政と連携した加賀市にあった形の推進チームができるようになれば良いと思います。

後ほど今後のスケジュールやロードマップの説明もありますが、市民主体の円卓会議を開催し、その中から構想推進チームを構築していくことなどが必要ではないかと思います。

◆山田委員

ガーデンシティ構想推進チームという組織の中に、広報担当としてのローカルメディアと、専門家と、スタッフなどがいるという認識でよろしいでしょうか。

◆事務局

チームという1つの組織を立ち上げるかどうかは未定ですが、イメージとしてはそういう認識です。

◆山田委員

もてなしガーデナーの方々はボランティアの方だと認識していたので、もてなしガーデナーがこのチームに入るということは、これからは組織の一員になっていくことなのでしょう。これまでのもてなしガーデナーともてなしガーデナーに与えようとしている役割との間に乖離があるのではないかと思います。ガーデンシティ構想推進チームが1つの組織であるのならば、その中の構想推進団体に名前がついていることに少し違和感があります。また、ガーデンシティ構想推進チームの旗振りはどなたがやるのかということが気になりました。

◆事務局

もてなしガーデナーは山田委員がおっしゃる通り、ボランティアで賛同していただいて活動してくれる方々を指しています。あくまでもイベントなどマネジメントが必要なところには、専門家に入っていただく予定です。造園や樹木に関する専門家や、イベントのマネジメントやコーディネートに関する専門家、ガーデンシティを推進していくための専門家など、いろんな専門家がいるという認識です。もてなしガーデナーは専門家のところに入るということではなく、市民が空き地や耕作放棄地などの管理について、専門家へ相談し、専門家はもてなしガーデナーへ土地の紹介や活用のノウハウを提供するなど、マッチングのシステムを作りたいと考えています。

ガーデンシティ構想推進チームにローカルメディアが入っていますが、ガーデンシティ構想について、多くの一般市民は知らないと思うので、ローカルメディアやマスメディアも含めながら広報を進めたいと思います。

また、プレイヤー市民の方は、誰でももてなしガーデナーになることができ、遊休地を登録するだけでなく、活用する側にもなれます。もてなしガーデナーにボランティア以外のこともしてもらおうという意味でこの模式図を作っているわけではないということも補足説明させていただきます。

◆山田委員

そうであれば、構想推進団体ともてなしガーデナーの役割は違うのではないかと思います。構想推進団体というのは、マッチングや活用、人材育成を行う人がいるということで、もてなしガーデナーではないと思い、違和感を感じました。その認識が資料と言葉で違ったのではないかと思います。

体制・組織は見直されると思いますが、「ガーデンシティ構想推進チーム」というより、「ガーデンシティ構想推進ネットワーク」のようなものを想定しているのではないかと推測しました。いずれにしても関係者をまとめる旗振り役が必要になるのではないかと考えています。

◆事務局

ご意見にいただいたように、チームではなく、ネットワークなのではないかと思いましたが、わかりやすい言葉を考えていきたいと思います。

◆坂本委員長

専門家、もてなしガーデナー、市民の方、行政の方も担当として入ることがありえるかと思えます。この事業自体の予算や、お金の動きをどうやって把握するのか等を考えていくと、もう少し違う形になるかもしれません。

◆事務局

仕掛けていくのは行政になるのではないかと思います。最終的に、行政が仕切っていくのか、専門家が仕切っていくのかというところは、今後検討します。

◆坂本委員長

横並びで行政が入っているといいと思います。行政が先頭に立つイメージはないのですが、何らかの形で関わりがないといけないと思います。チーム自体が独立性を持ったNPOのような形で、全体を司る役割を持つようにはなるのが良いのではないかと思います。次回までに形にしていけるのでしょうか。

◆事務局

また検討したいと思いますが、ただ、誰がこれをやるのかという明確な表記はできないと思います。

◆辻委員

今ほどの構想推進団体について、私たちが行っている団体が、もてなしガーデナーのこのモデルケースに当てはまり、まさにここのプレイヤーとなる団体だと思うのですが、行政が関わって、専門家を入れて、というのは団体に対してどのように関わっていただけるのですか。

◆事務局

遊休地の活動は辻委員たちの活動そのものだと思います。もてなしガーデナーの方の中には活動の場を求めている方が相当数いらっしゃると思いますが、ご自身で活動の場を見つけるのはなかなか難しいのではないかと思います。そのようなもてなしガーデナーの方に土地を紹介するなどして、遊休地での活動を促進するお手伝いをさせていただきます。

◆辻委員

自分たちで行っているような遊休地での活動をもっとたくさんの方にわかってもらうために、行政として、活動の成果を見てもらえるようなシステムがあると良いのではないのでしょうか。

◆事務局

どんな事業であるか知っていただくにあたり、必要な広報の部分は行政が苦手としている部分であるので、ローカルメディアやマスメディアがチームのなかで広報を担ってほしいと考えております。

議事4 推進体制、ロードマップ

◆坂本委員長

続いて、議事4、推進体制、ロードマップについて、事務局より説明をお願いします。

◆事務局

(議事説明)

◆山田委員

ガーデンシティ構想推進チームの運営する財源はどうなっているのでしょうか。

◆事務局

今考えているガーデンシティ構想推進チームの運営の財源については、市の方から専門家の方に委託する形になります。

◆山田委員

専門家の方への謝金というよりも、ガーデンシティ構想推進チームは何らかのマネジメントが必要な規模になると思うのですが、ガーデンシティ構想推進チームのマネジメントの事務局の財源はどうなっているのでしょうか。先ほどNPOを立てるなどの話もありましたが、そういう可能性もあるのでしょうか。

◆事務局

ガーデンシティ構想推進チームとして、ひとつの団体を作るという前提ではなく、チームというのはガーデンシティ構想を推進していくネットワークのようなものだと考えています。あくまで実施するのは専門家になるかと思います。

◆山田委員

そうなる行政の方の負担が重くなるのかなと思うのですが、専門家への依頼、人数調整、集客なども市役所の方が入られることになると思います。これがこの組織図の目指す形なのかと少し疑問です。仕組みづくりが重要で、チームやNPOを立ち上げて、やりたくてやっている方々がまとまってムーブメントを起こすことでまちが変わっていくと思いますので、キーパーソンとなる団体が必要になると思います。

その辺に関しても、次回が最終回だと思いますが、改めてご検討いただけると良いと思います。

◆坂本委員長

ありがとうございます。重要なことだと思います。

◆佐藤委員

他の自治体でも起きていることですが、良い計画ができて、いざ実行となった時に、結局誰がやるのかが問題になっています。

緑の利活用を進めようという動きが行政に降りかかっていると思いますが、各行政が受け止めきれなくなっていると思います。公園でも同じで、公園に向けられるニーズや市民連携の企画は行政だけでは実行できず、かといって民間が入ったからできるわけでもなく、まちづくりの視点で進めていけるような団体が入って、必要なノウハウなどがあって初めて出来るのではないかと思います。これらのことを進めていくためには、このようなムーブメントについて、行政内部でもPRをしていき、そして、このような組織・新しい仕組みが必要だということを伝えていかなくてはいけないと思います。

今、大きな時代の変わり目で人口も減っている中で、うまく仕組みづくりを始めているまちが社会課題を切り抜けていくまちだと思います。そこに舵を切れるかどうかというのは、その瀬戸際にあるのではないかと思います。加賀市はこれから、どのようにこの計画を本気で考え、本気でやっていくのか。ただつくって終わりというのはもったいないと思います。いい仕組みをつくっていく必要があります。

他の自治体各地でも試行錯誤しながらやっていますが、行政の方も市民の方も一緒に勉強していくことが必要だと思います。一緒につくることから始めるのが良いのではないかと思います。

そして、たくさんの取り組みが出てきましたが、一気にやることは難しいです。中間支援組織が既にあれば、話は別ですが、まずはモデルを作り成功体験をして、行政内部と市民に、この市はガーデンシティであるということを伝えていくことが大切だと思います。そういう意味で、広報戦略は非常に重要だと思います。ローカルメディアとマスメディアを繋ぐのは行政の役割だと思います。

また、グリーンインフラというのは、ただの植物でも貯水機能でもなく、社会教育、観光、福祉、芸術文化など全てにわたって自然が持つ機能を生かしましょうというものです。加賀市はグリーンインフラの宝庫です。ガーデンシティ推進構想チームの中にも教育などいろんな分野の人が入っていくべきだと思います。全ての人たちが一緒になって、ヘルシーシティをつくっていくべきだと思います。

行政は縦割りなので、横をつなぐのは大変なことですが、これをやるかやらないかが持続可能なまちをつくれるかどうかの別れ道になってくると思います。先程、行政の人もガーデンシティ構想推進チームに入るべきではないかという話がありましたが、まさにその通りだと思います。中間支援組織的なマネジメントができないのであれば、行政で担当者をつけるしかないと思います。行政内部の調整、地域の調整、両方が必要になってきます。本当は一緒になって推進していくのがいいのですが、予算もない、自主事業でやっていくことも難しいということであれば、モデルプロジェクトを行い、ガーデンシティに予算をつけようという流れにしていくしかないと思います。

最後に、広報戦略は非常に重要です。山田委員がお話しされていた流れはプロの視点で非常に参考になると思います。ガーデンシティを加賀市のブランドとして見せていくためにはシンポジウムも重要ですが、日常的に市民の方々が、自然がある、文化がある、温泉があると意識してもらえるようなブランディングが必要です。広報については、市の広報戦略部署と連携し、またそこと民間がタッグを組んで、広報戦略チームを官民連携でつくと良いと思います。

大きな事業なので時間がかかるとは思いますが、その仕組みをきちんとつくっていくということを次の委員会までに検討いただくと良いと思います。

◆事務局

モデル事業に取り組んでいくのはどうかという話がありましたが、加賀市もこれから試行錯誤しないといけないと思います。モデル事業を市の方から仕掛けていって、専門家やもてなしガーデナー、メディアなど関係者を巻き込むようなモデル事業に取り組んでいきたいと思います。

グリーンインフラの話がありました。教育の中にグリーンインフラの活用を盛り込んでいくというのは良い考えだと思います。もてなしガーデナーの中に、地域の子供たちと取り組んでいる方々もいます。そこから波及するように、グリーンインフラについて、活用法、教育などにも踏み込んでいきたいと思います。

ブランディングが必要とのことでしたが、これまで活動されているまちづくりの中でもありました、古墳群やササユリ、桜の木の苗植えなどといった地元の誇りも1つのブランディングかと思うので、連携して進めていきたいです。

◆坂本委員長

以前の委員会で、行政は市長直属の部署を作るべきではないかという話をしたと思いますが、教育や環境、いろんな部署が関わる活動であれば、そういった権限の集中が必要なのではないかと思います。

ガーデンシティ構想推進チームに関しては、雛形を作るというのは良いのですが、来年度から民間の方と検討会議が始まるのであれば、活動は市民が主体的にかかわる工夫が必要なのではないかと思います。

時間がない中ですが、最後にご意見ある方はいただければと思います。

◆山田委員

財団を運営するときに繰り返し言われることですが、組織・事業・財源すべてそろわないと成長していかないと思います。まだまだ財源と組織のところの不透明かと思います。

素晴らしい事業計画になっていると思いますので、組織、事業、財源というのを整理し、進めていただければと思います。期待しています。

◆佐藤委員

5番目のロードマップ、役割分担とありますが、ここまで大枠のアクションプランの中での役割分担は無理があると思います。役割分担を細かく出す必要はないと思います。役割を明示してしまうと丸がないところは関係ないように見えてしまうので、もう少し内容を考えながら、役割分担を考えていけば良いと思います。

◆坂本委員長

たくさんのご意見ありがとうございました。

最後に、今後の予定について事務局より説明してください。

◆事務局

今後の予定についてですが、本日いただいたご意見も踏まえ、見直しを行い、次回、8月頃を予定しております最後の第5回検討委員会では、プランの全体の内容を確認したいと思います。その

後、パブリックコメントを行い、またパブリックコメントでご意見があればそれも反映し、その後、この内容でよろしいかを委員長及び委員の皆様へメール等で確認を行い、了承いただいたものを9月ごろ市議会で報告する予定です。そして10月頃、第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プランとして公表予定です。

スケジュールについては以上です。

◆坂本委員長

こちらに関して、ご質問、ご意見ございませんか。

ないようでしたら、お時間になりましたので、閉会とさせていただきたいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

◆事務局

それでは、これもちまして、第4回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。